

2014 年度春の三者総会 議事録

2015 年度三者事務局校・神戸大学

平成 27 年 3 月 21 日

於・早稲田大学 DE 会場

目次

1	2015 年度修正予算案	1
1.1	概要	1
1.2	質疑応答	1
2	原子核三者若手の抱える課題解決に向けて	1
2.1	講師の旅費補助	1
2.1.1	概要	1
2.2	参加者増を見込める開催地・時期の模索	1
2.2.1	概要	1
2.2.2	質疑応答	1
2.3	M1 の発表及び DC・PD の参加の促進	2
2.3.1	概要	2
2.3.2	質疑応答	2
2.4	引き継ぎの早期化と情報集約化	2
2.4.1	概要	2
2.4.2	質疑応答	2
3	ローテーション校の新しい選定方法の作成	3
3.1	概要	3

1 2015 年度修正予算案

1.1 概要

2015 年度三者センター校（北海道大学）により予算案が提出され、承認された。

1.2 質疑応答

- Q. 三者準備校（東北大学）の下見交通費（3 人分）は多すぎではないか？
A. 校長、会計、会場係が実際に下見・交渉する必要があったため、妥当な額である。
Q. 繰越し金 80 万は多すぎではないか？
A. 繰越し金を削り、学生・講師の旅費に回すことが可能である。

2 原子核三者若手の抱える課題解決に向けて

2.1 講師の旅費補助

2.1.1 概要

講師の方へ参加依頼する際に、以下の順で行うことが承認された。

1. 自費参加前提で依頼をしない
2. 講師を引き受けて頂いた後自費での参加をお願いする
3. 自費での参加が難しい場合は旅費補助を行う

これに加え、

- 講師の方への参加の依頼メールのテンプレートを作成する（2015 年度三者センター校：北海道大学が担当）
- 依頼の際に講師旅費のための予算を学生の旅費に回したい旨を伝える

ことが決定した。

2.2 参加者増を見込める開催地・時期の模索

2.2.1 概要

他の研究会との日程が重複することを防ぐために、早期に会場を選定し他の研究会の主催者に周知する。具体的には夏の三者総会で三者若手に周知した後、SGL 等のメーリングリストに情報を流すことが承認された。過去に提案された福島を開催地として検討するとともに、

- 全国で好ましい会場をリストアップする（2015 年度名簿校：広島大学が担当）

ことが決定した。解決案のさらなる模索は、2016 年度三者準備校に引き継ぐ予定である。

2.2.2 質疑応答

- Q. 夏の学校の開催時期を変更してはどうか？
A. 学会への参加、論文の提出等により、学生がまとまった時間を確保できる時期に限られるので難しい。

2.3 M1 の発表及び DC・PD の参加の促進

2.3.1 概要

研究交流会の企画、DC・PD の誘致、M1 の勉強内容の発表を推奨することにより参加者、発表者の増加を図ることが承認された。

- 夏の三者総会を目前に、夏の学校に関するアンケートを作成する（2015 年度三者センター校：北海道大学が担当）

が決定した。アンケートは来年度の総会後の実施を予定している。

2.3.2 質疑応答

Q. 研究交流会や発表の時間確保はどうするか？

A. 一つの案として、講義時間を減らすことが挙げられる。

Q. 夏の学校に参加しない理由をどのようにして把握するか？

A. アンケートを取り、後日問題点を整理する。夏の学校 HP 上にアンケート用にページを作成する等。夏の学校に参加していない学生に対しては、各研究室を通じてアンケートを依頼することが有効である。

Q. 研究交流会等の企画はどの役職校が担当するのか？

A. 新たな企画担当の役職校の設立を含め、検討の余地有り。

2.4 引き継ぎの早期化と情報集約化

2.4.1 概要

早期の引き継ぎ作業開始と情報集約化を行うことと、その具体的な手順（議案書参照）が承認された。

- 三者センター校・準備校は、特に予算、会場、日程について6月末までに引き継ぎを完了させる。
- 講義録を YONUPA-HP 上にも掲載する。各パート準備校が三者事務局校にデータを送る。
- 情報集約化のため、専用の web ページの開設を検討する（2015 年度三者事務局校：神戸大学が担当）

ことが決定した。

2.4.2 質疑応答

Q. 役職校が管理している情報を三者若手全体で共有するべきか？

A. 管理者と第三者が閲覧してよい情報の選定が必要であるため、検討の余地有り。

Q. 各役職校の組織編成をわかりやすくする方法はないか？

A. 各パートの組織編成を統一し、各組織の仕事を明確化する必要有り。それらの情報と歴代の役職校の情報を web ページに掲載することを検討する。

3 ローテーション校の新しい選定方法の作成

3.1 概要

三者準備校・三者センター校について、議案書にある新しい選定方法を適用することが承認された。三者事務局校、名簿校については少人数で運営できるため、対象としない。

- 2015 年度夏の三者総会で具体的な選定方法を提案する（2015 年度三者事務局校：神戸大学が担当）
ことが決定した。